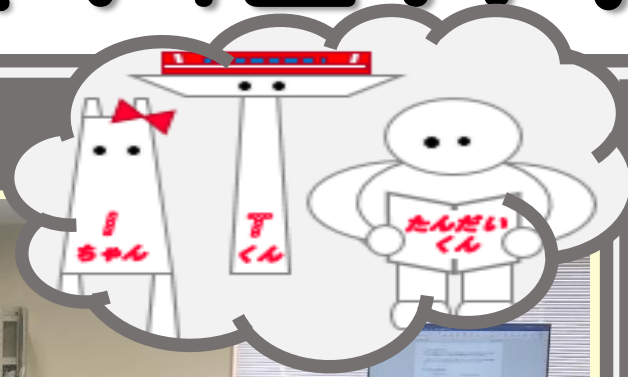




## 1 魅力膨らむIT短大!



体験授業「ロボットプログラミング」に参加する高校生たち



## 3 新聞を読む学生

本校では、「専門力」に加え「社会人基礎力」向上のため、新聞スクラップを実施しています。IT社会を支える人材育成の一環となるものです。

〈記事〉各新聞広告掲載(2022年8月6日)  
「この夏にすべてをかける君へ」  
2022 夏 斎藤佑樹

### ◇要約

●作山翔梧さん(多賀高卒)  
『その夢は、きっと叶うよ』とは、僕は言いません。勝負は同じ夢を持った人たちのぶつかり合いだから。ただ、まっすぐな君のまま立ち続けてください。前を向くために必要なもの。それは最後まで闘い抜いた記憶です。

### ◇感想

●今川葉菜さん(石岡商高卒)  
機械で印字するよりも、こんな風に手書きの文字は凄くストレートに心に届くなあと改めて思いました。この文章を書かれた方が、相手のことを応援しているのが伝わってきて、私も頑張りたかったです。

●原田 悟さん(石岡商高卒)  
同じ夢を持つ人も世の中にはいるので必ず叶う夢はないと自分も思いました。自分の人生もこれから先いろいろな出来事があると思います。今までの人生の記憶を力にして未来を生きようと思います。

●小川颯斗さん(日立商高卒)  
夢が必ずしも叶うとは限らないが、勝負は何が起こるか分からない。だから、真っすぐ君のまま立ち続けることが大事だと思った。最後まで闘いぬいた記憶は未来を生きる大切な力になるというのは、とても良い言葉だと思った。

●加藤太一さん(勝田工高卒)  
私は、とても野球が好きで斎藤選手の事は以前から知っていました。高校、大学と世間から大注目され続けプロに入りました。しかし、その重圧からプロ二年目以降、いい成績を残せなかったのです。そのため、「夢はきっと叶うよとは言わない」という言葉がとても重く感じました。



代々城雄大さんと皆川拓海さん

8月27日(土)、高校生向けのオープンキャンパスが開催され、県内21の高校から33人の高校生が参加しました。

学校紹介の後、校内の見学や体験授業(ネットワークの仕組み、ロボットプログラミング セキュリティ、楽しいアルゴリズム等)が実施されました。

体験授業のアシスタントは、代々城雄大さん(石岡商高卒)、皆川拓海さん(東海高卒)です。代々城さんは「私が高校時代に見学した時、先輩が丁寧に説明してくれたのが印象的でした。本校への魅力がさらに膨らみました」と話していました。



CGによるプロジェクションマッピング



サンドアート



LEDディスプレイ



ロボットアーム

見学会場には、IT技術を活かした楽しいブース(①CGによるプロジェクションマッピング ②サンドアート ③LEDディスプレイ ④ロボットアームの制御)が設置されました。現在、国内のIT技術者が不足しています。確かな技術をここで学び、よりよく社会に活かす高校生に、大きな期待が寄せられています。

## 2 みんなの母校訪問!

### 県立水戸第二高等学校

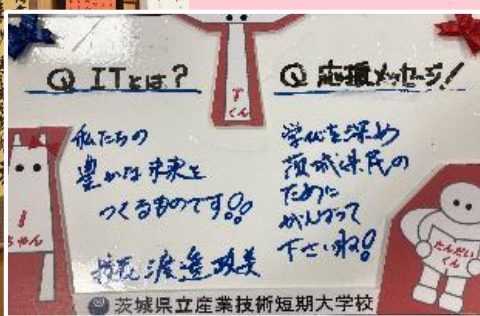


渡邊政美 校長



県内初の高等女学校で、創立122年(明治33年)の伝統校です。3万9千余名の卒業生が活躍しています。豊かな教育環境の中、国公立大学へ130名を超える進学実績をあげています。SSH指定校として理数教育にも力を入れています。

渡邊政美校長は「ITの専門技術を活かして、茨城県民のために役立てて欲しい」と話されていました。SSH(スーパーサイエンスハイスクール)



茨城県立産業技術短期大学校

